



ぶどうのささやき

35号

2023年
7月30日発行

地域経済の活性化を目指し、社会貢献をしています。

三浦小特集号



三浦の季節がやってきた～！

三浦市は、三方を海に囲まれた風光明媚な海岸線に恵まれ、都心から近くて便利な観光地として親しまれ、また産業としては、三崎漁港を中心としたマグロ、キンメダイそしてサバなどの水産業とダイコン、キャベツなどの露地野菜栽培を中心とした農業であり、早くからの農水産物の供給地として発展してきました。

近年では、多種多様な、陸・海での体験イベント・アクティビティなど、観光地としての新たな魅力も加わっております。

三浦市観光協会は、この三浦市域を中心とする観光宣伝活動に関する事業を推進し、観光客を誘致する事業の企画立案・実施や各地域での行事・イベントの主催・協力、観光客の問い合わせや案内などが主たる業務であり、地域社会・文化の健全な発展及び地域経済の振興に寄与することを目的としております。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、600万人を超えていた観光客数やこれに伴う観光客消費額は、平成28年から4年間連続で大幅に減少し、昨年度から徐々に回復傾向ではありますが、まだまだ……。

今年に入って、市内の大きなイベントである「三浦海岸桜まつり」「三浦国際市民マラソン」など4年ぶりに開催し、またGWには、飲食・ホテル・レジャーなどの各観光施設も多くの観光客で賑わい、以前の元気で活気ある三浦に戻っております。

三浦市の観光客数は復活することは間違いないと思われませんが、少子高齢化や人口減少などで更に全国の観光地誘客地域間競争が激しくなってきます。

今後は、日本人観光客はもとより、外国人観光客もターゲットにし、多様化する観光ニーズに対応すべく、三浦市や関係諸団体、協会会員、市民の皆さまと共に、受入れ環境の整備や観光資源の開発など、観光客が三浦に訪れてみたいと思っただけの新たな魅力の創造と発信が必要となります。

また、神奈川県では、横浜・箱根・鎌倉という国際的観光地があり、新たな観光の核候補地域として、平成24年度には「城ヶ島・三浦」構想が認定され、海外にも強力に発信できる「新たな観光の核づくり」に取り組んでまいりました。

観光客を呼び込むだけでなく、観光客により多くの消費

一般社団法人
三浦市観光協会

会長 草川 晴夫



をしていただく仕掛けも必要で、そのためには、地域間の回遊性を高め、滞在時間を延ばすことにより、それぞれの地域活動を促進するとともに、宿泊を伴った観光環境を整える取り組みも行っております。

現在、観光客の利便性や回遊性向上を図るために、みうらレンタサイクル事業を推進し、レンタサイクル事業者と連携、5か所のポートで相互に乗り降りできるサービスなどで、地域振興に努めております。

外国人観光客が増加した際には、産業クラスター研究会のお力添えもいただき、おもてなしの気持ちでお迎えしたいと思います。

これから、夏本番！ 三浦の季節がやってまいります。ここで、三浦の夏の風物詩を海と陸からご紹介したいと思います。

8月8日(火) 三浦海岸では43回を迎える「三浦海岸納涼まつり花火大会」が4年ぶりに開催され、昼間は海水浴で海と太陽を楽しみ、そして夏の夜のひと時は市民と観光客が共に楽しめる行事として、夏の夜空と海を鮮やかに彩ります。

また、昭和の趣の残る港町、三崎下町商店街では、「食のまち三浦」の魅力を高めようと、三浦の食をより多くの人に知って楽しんでいただくことを目的に、8月13日(日)14日(月)「みうら夜市」が開催され、マグロメニューやご当地グルメなど、ここでしか食べられない物が勢ぞろい、そして大人も子供も楽しめるイベントも盛りだくさんで、三崎の夏の思い出を作っていただきたいと思っております。

三浦市は、人よし 食よし 気分よし！(三浦市長の基本姿勢)。

皆さま、ぜひ三浦市に遊びに来ていただき、楽しい思い出をお作りください。

心よりお待ちいたしております。

クラスターとは・・・

クラスターとは、ぶどうの房や羊の群れを意味します。米国の経済学者マイケル・ポーターが著書『経済戦略』の中で異業種間のネットワークを構成している状況を意味するものとして『産業クラスター』という言葉を使っています。私たちは地域経済活性化への貢献を目指して、2003年8月に産業クラスター研究会を設立しました。



当会の企業支援体制の刷新について

平素より当会の活動に対し皆様よりの多くのご理解、ご協力を賜り深く感謝いたします。

長かったコロナパンデミックによる経済や日常生活に対する様々な制約が大幅に緩和され、コロナ前の状態のようにやく戻りつつありますが、前年度までは当会も人的交流の制限等から、予定された多くの支援活動が思うように行えない事態となり、当会を支援して下さっている皆様には大変申し訳なく思っております。

今年5月以降はコロナの扱いが第5類に移行したため通常の活動が可能となりました。支援活動を積極的に再開したいと考えておりますので宜しくお願ひ申し上げます。

お陰様で当会は本年で設立20周年を迎えます。これも会を支えて下さっている多くの関係者の皆様のお陰と深く感謝申し上げます。個人会員の皆様の中には発足当時から活躍されている方々もおり感慨深いものがありますが、コロナを挟んで大きく変化した企業の活動様式やデジタル技術分野の変化は発足当時の個人会員のキャリアやスキルとは異なったものも多く、私たちもこれらの様式や技術の習得に勤めながら地域の中小企業や市民の皆様と課題を共有化して行かなくてはなりません。

先の総会ではこれらを踏まえ今迄の支援プログラムに加え、企業の情報セキュリティやDX・デジタル支援項目を新たに追加することを決定し、企業の皆様の新しい技術取得に寄り添った展開をして行くこととしました。

理事長 富野 養二郎



企業支援体制もこれら新しい分野に対応するために、今迄の個人会員のキャリア、スキルに基づいた縦割りの支部会制から支援項目毎にグループを作り、より自由度の高い横断的な活動体制とすることにしました。

これにより個人会員が幅広く協力をしながら課題に取り組むことが可能になりました。

また、先の総会に先立ち役員若返りが必要との多数の意見により、総会において新任2名の役員が選任され重任を含め10名の体制となりました。

来年2月には会の設立20周年の記念行事も計画しています。これに向け今迄以上に行政や他団体とも協力して地域中小企業の皆様の事業の改善や新しい分野に挑戦するお手伝い、市民の皆様への環境問題の啓蒙や小さな疑問の相談室の開催等少しでもお役に立てるよう一丸となって頑張る所存ですので、皆様からの今迄と変わらぬご指導、ご鞭撻を宜しくお願ひ申し上げます。



【歳時記】どどめ

6月になると熟した「どどめ」を思い出すことがある。「どどめ」とは桑の実のこと。西関東（多摩地域・群馬・埼玉・神奈川）の方言¹⁾、といわれる。桑はお蚕様（おこさま）とも呼ばれる蚕の餌となる桑の葉を収穫するために栽培される。養蚕は、第二次大戦中に絶滅状態となり、戦後復興してきた。それとともに産地では桑が畑の主要栽培物となった。家の周りや道路端には桑畑が並び、村中が桑畑の中にあるといっても過言ではない状態にあった。

どどめは、緑↓赤↓黒紫と色が順に変化して熟する。丁寧に栽培されている桑に熟したどどめは長さが2〜3cmにもなり、ふっくらとしている。その実を口に含むと、ジュワツと甘いジュースが口中に広がる。

よく食べたのは小学校高学年から中学校の頃。放課後、下校の途中に寄り道をする。道路の両脇に桑畑があるが、そういう畑には足を踏み入れない。夏の桑畑は蒸し暑いので避けていたように思う。木陰で涼しそうな畑をいくつか見つけておいてそれらの一つに直行する。その畑のどどめは水分も十分にあつてジュウシーである。それを口に含んだ時には、空腹気味のお腹を満たしてもくれ、至福の時である。

その慣行？を始めたころ、家に帰ったところ、「どどめを食って来ただろう？」と聞かれて、「どうしてわかるのだろう？」、「と不思議に思ったことを憶えている。鏡を見ると唇が青ざめている。どどめの黒紫色を「どどめ色」というが、お節介にもその青ざめた色も含まれている。

話は変わって横須賀に住み始めた頃、子供たちと散歩をしていたら道路脇の土手に桑の木が生えている。桑の木は畑で栽培するものという既成概念のある頭には新鮮に映ったものである。

その後、三浦半島の尾根沿いの道を歩いていると、4メートルもあろうかという桑の木が生えていた。これにはさらに驚かされた。しかし、考えてみると、桑はもともと山に生えていたものであろう。当然のことである。

その桑の木は、毎年、鈴なりのどどめを生産する。ときどき食へに行くが、栽培された桑の木のものとは異なる。実は1cm足らずで痩せ細っている。口に含んでもジュウシーさは味わえない。噛むとどどめの味はする。とても至福とはならないが、懐かしさを求めてときどきそのあたりを散歩する（圭）。



どどめ（『ウィキペディア』どどめ色より引用）

註1）朝日新聞デジタル「どどめ・東京・地域 (asahi.com)」

創業 50 周年を迎えて

今年、創業 50 周年を迎える廃棄物処理破砕機メーカーで当会法人会員の株式会社ヘリオス社の林卓一社長に、お話を伺いました。

事務所に入ると、大きなモニター画面が数百メートル先の第 2 事務所と常時接続されており、同じ事務所で机を並べているかのように打合せも可能です。

また、経理のスタッフはご主人の転勤で長野に引っ越し、長野からフルタイムのリモートワークでそのまま仕事を続けています。

現在、破砕機業界は中国の廃プラ輸入禁止や SDGs の進展に伴う需要で活況にあり、処理の難しいゴミだと、あちこちの破砕機メーカーに断られて、相談にくる顧客も多いそうで、今日もお客さんと破砕実験を実施中とのことでした。

同社は、焼却の前処理としての破砕機が当たり前でなかった 1973 年に林社長の伯父さんである富野暉一郎氏により設立されたゴミ処理用破砕機専門メーカーのパイオニアであり、困った時の駆け込み寺になるのも当然なのでしょう。

ヘリオス社の破砕機は全国の焼却施設に設置されていますが、公営の一般廃棄物処理などの焼却プラントメーカー経由の受注の他、産廃の場合、プラントメーカーだけでなく、直接エンドユーザーが問い合わせしてくることも多いそうです。それでは全国からどのようにして三浦市のヘリオスを見つけるのでしょうか。

林社長によると、同社のホームページだそうです。勿論実績なども考慮するでしょうが、同社を選ぶキーワード「○○」があるそうです。破砕性能は当然ですが、「○○」は確かに焼却炉用破砕機に求められる重要な要素です。創業時からの設計思想とのことですので、同社が顧客のニーズに向き合ってきた会社だというのが良く分かります。

さて、同社のある三浦市は三浦大根、三崎マグロに代表される農漁業、そして観光で有名ですが、工業はあまり聞きません。林社長に三浦市に会社があることの損得をうかがうと、意外なことにメリットが大きいとのこと。モノづくりでは、ファブレスメーカーの同社は、全国から各部品を最適なメーカーから購入することが可能です。営業

HELIOS 株式会社ヘリオス

神奈川県三浦市南下浦町菊名 1247-49

(電話) 046-887-2011

(FAX) 046-887-2023

<https://helios-inc.co.jp>

社長 林卓一



通勤途中に海や富士山を見ることができると感謝し、この職場をできるかぎり長く守り、発展させたいと毎朝感じられる三浦は最高です。

中小企業だからこそその素早い機動力と、ニッチな業界だからこそその専門性を活かして、お客様の問題解決にとりくんでいます。

社会も業界も大きく変わりつつある中、新たな成長発展の事業機会を少しでもつかみたいと日々取り組むと同時に、従業員との対話を通じて、働きやすい職場、能力的にも人間的にも成長、発展できる職場を作り続けたいと思います。

面でも過去の実績に加え、ホームページ経由のデジタル営業が地理的な不利益を軽減しています。

人材については、逆に職住接近で地元から良い人に来てもらえるそうです。

その人材育成の秘訣は失敗、即ち低いハードルから沢山経験させることだそうです。そして能力とその成長を適正に評価する仕組みがスキルマップ。スキルマップは業務ごとに求められる数十項目のスキルとその達成レベルを自己と上司で評価し、その評価結果が処遇にリンクしています。林社長が 5 年かけて開発し、やっと今年から導入できたとのこと。スキル項目の選定、スキル評価のレベリングの擦り合わせを何度も繰り返し、実態との乖離を縮めていったのでしょう。スキルをベースにしたジョブ型評価と言えますが、実際の評価結果では経験がちゃんとスコアに反映されているそうで、林社長の悪戦苦闘の成果が目に見えるようです。

「スキルがあなたの未来を創る」ドイツ環境メッセで見つけたメッセージだそうです。

(インタビューア：広報チーム 伊澤・仲田)

事業活動紹介

組織変更について

事務局長 伊澤 俊夫



本年度より、産業クラスター研究会は組織変更を行いました。

当会は地域の中小企業経営者の有志と行政・大学・企業のOBが中心となって「産業クラスター」を形成し、シニアの豊富な経験を生かして行政・大学・研究会・金融機関などの協力を得て地域の中小企業活性化の方策研究、さらには研究成果などの事業を行うと共に、「新しい公共」実現のため、地域経済及び地域社会に寄与することを目的として活動してきました。

2003年発足当時より、多彩な人材・知識の集団でその知見と豊富な人脈を生かして、情報収集とニーズに合わせた課題解決支援を実施してきました。シニアの経験してきた組織管理・経営手法により、以下の分野の異なる活動に取組む部会組織で運営してきました。

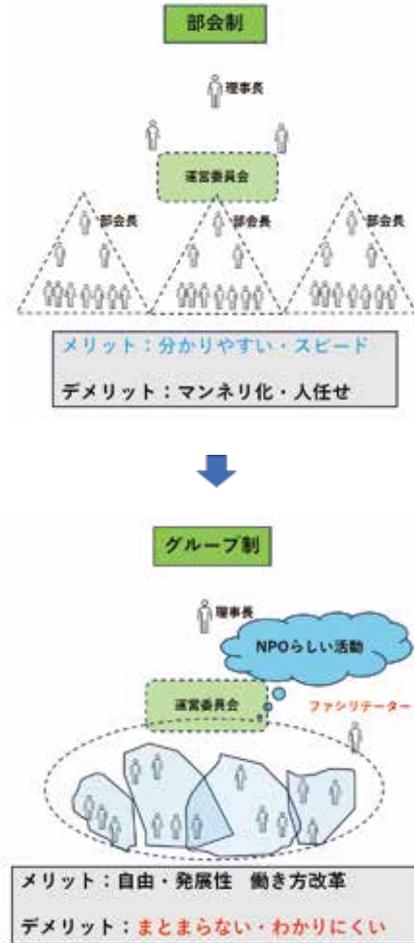
- ①行政・大学・企業団体との連携による（第三者評価・PISM・横浜市委託事業等）
- ②中小企業との個別課題支援（ISO 認証取得支援・翻訳・通訳・知財・業務改善支援）
- ③「新しい公共」（いまさら相談会・ものづくり教室・子供理科教室など）一般市民活動への参加

ところが2020年、年初に発生したコロナパンデミックにより、人と人の直接交流による諸活動を停止あるいは制限され、会の運営もほぼ休止状態となりました。一方、2000年頃から急速に進歩してきた、デジタル技術、高速通信技術により世界的にソサエティ 4.0「情報化時代」と言われ、世界は急速にグローバル化が進み、その結果あらゆる価値の共有化・グローバルスタンダードの要求・人権問題など従来の集団管理・経営手法の変革が必要となってきました。

そこで、当会は時代の変化に対応するために、「上意下達」となりやすい部会制をやめて、個人の見識を広く活用できるように「フラット組織」テーマ別グループ構成にしました。各個人は興味のあるテーマに自由参加とすることで、多彩な知見を有効に活用できるようにする。それを加速して進めるためにファシリテータの役割を設定しました。

個人の収集した情報はメール等で連絡・報告することに加えて、Zoomを使った定期的な「連絡会」を開始しました。従来からの自由討論会に加えて、運営委員会（理事会への答申）もより活発に情報・意見交換ができるような運営としていきたいと考えています。

情報化時代のフラットオペレーションについては、多くの企業・団体でDX（デジタルトランスフォーメーション）達成に向けてさまざまな工夫がされています。当会も地域の中小企業の信頼されるプラットフォームとなれるように活動



していきます。

具体的な活動については、現在計画中のホームページ刷新時にご紹介していきます。

現在、下記グループが活動しています。

- ①経営・業務改善支援（法人会員企業の伴奏支援、個別課題支援）
- ②横浜市からの受託事業「第三者評価」
- ③HP・IT・特許支援
- ④情報セキュリティ活動（PISM、IPA セキュリティアクション、講習会）
- ⑤翻訳・通訳支援業務
- ⑥デジタル/DX研究会（IOT/AI活用研究）
- ⑦新しい公共活動（子供ものづくり教室、いまさら相談室、PC・スマホ教室）」

激変するグローバル政治・経済環境の変化の中で、少子高齢化が進む日本において、SDGs活動などの次世代につながる課題解決のために、シニアが健康で経験を活かした生き甲斐のある社会活動ができるように取組んでいきます。

歴史散歩

観音巡りは岬めぐり・三浦 33 観音巡り

個人会員 仲田 清

4 月末のタウンニュース横須賀版を眺めていると 5 月 24 日まで三浦 38 地蔵尊一斉御開帳のニュースが目飛び込んできました。以前から興味があった三浦 33 観音霊場と比べて見ると、多数の霊場が被っていることが分かりました。それでは行くしかない、5 月の晴れた朝、33 観音 & 38 地蔵尊巡りとばかり、京急三崎口駅に降り立ちました。

三浦 33 観音は鎌倉時代初期に義経家臣の鈴木三郎重家が、大飢饉に苦しむ人々の救済を祈願して巡礼したのが起源と言われており、三崎の 1 番音岸寺から三浦市、横須賀市、逗子市、葉山町、横須賀市と三浦半島を反時計回りに廻り、三浦市内に戻ってきます。今回は、三崎口から三浦海岸まで三浦市内の 33 観音と 38 地蔵を歩きます。



三崎口駅から南東に住宅街を抜け、丘を回ると 15 分ほどで 14 番妙音寺に着きます。実は浦賀の 13 番東福寺からかなり離れており、前から不思議でした。そこで御朱印をいただきながらご住職に聞いて見ると、元々は鴨居にあった 14 番のお寺が廃寺になったため引き受けたのだそうです。このお寺も 38 地蔵の一つです。

境内奥、先程回り込んだ丘の上に建立された大日如来像を抜け、次の小網代湾 32 番海蔵寺に向かいます。三浦台地に広がる野菜畑の先に富士山が白い頂を見せています。ベイスアの横を曲り小網代の森の遊歩道を、森の緑、小川のせせらぎ、小鳥のさえずりを楽しみながら小網代湾まで小一時間で下っていきます。アカテガニをはじめ多くの希少生物の棲む、水源から河口まで小さな森の中で完結している「奇跡の森」とも呼ばれるおススメのスポットです。

小網代湾から県道 26 号に戻り、お寺を回りながら三崎に下っ



ていくと諸磯湾の奥に 2 番見桃寺があります。桃の御所とも言われ、桜の御所・本瑞寺、椿の御所・大椿寺とあわせて源頼朝が三崎に建てた 3 つの別荘のなごりです。

三崎口からここまで約 10km、お腹も空いてきました。三崎マグロを楽しむしかありません。三崎漁港の食堂は平日というのにあちらこちらで行列ができています。人気ですね。お目当ての店のある方は時間に余裕をもってお越しください！（食べるのに夢中で、写真を撮るのを忘れました。）

腹ごしらえもできたので、三崎北条湾を回って椿の御所にお参りの後、城ヶ島大橋の下をくぐって毘沙門の海応寺を目指します。三浦台地の県道 215 号を、2 基の風力発電機まで、右手に城ヶ島、太平洋を眺めながら歩きます。風力発電機を過ぎて内陸に入り 20 分ほどで海応寺です。ここも 38 地蔵の幟がはためいています。本堂が開いていたので中までお参りすると、ご住職が目の前で御朱印を書いてくださいました。



海応寺から江奈湾の観音堂まで下り、再び峠を越えて金田湾まで出ると、三浦海岸まで房総の山々と久里浜の煙突を眺めながら海岸沿いにやっと平坦な道をあと一頑張りです。三浦観光インフォメーションセンターの前を通り、最後の 10 番三樹院に着いたのは 18 時 36 分、歩いた距離 28km、歩数 4 万 8 千歩、上がった階数 52 階でした。

三崎口をスタートして、小網代や油壺などヨットハーバーとして有名な入り江の多い相模湾に面した西岸、城ヶ島や毘沙門、江奈湾など岩礁と押し寄せる白波が迫力の太平洋に面した南岸、そして金田湾から三浦海岸へと長く続く白い砂浜の東岸と、三者三様の岬めぐりの旅を楽しみました。これも観音様、お地蔵様の御利益の賜物でしょう。今夜のビールは美味しいぞ。

さて、霊場巡りの楽しみの一つに御朱印があります。ところが今回お参りしたお寺には無住だったり本堂がしまっているところが多く、御朱印を全ていただくのは困難でした。DX 時代の今、電子御朱印帖も面白そうです。

トピックス

スマートホンのセキュリティ対策を学ぼう

公共支援グループ 伊澤 俊夫

横須賀市船越町町内会老人会で出前セミナー

<当日の概要>

日時：2023.2.23（木：休日）午後1時より

場所：横須賀市船越町8丁目町内会館

内容：八友会の集いに参加

①ポッチャ（ボールゲーム）②演劇（オレオレ詐欺）：市福祉総務課地域力推進係の皆様、八友会の有志メンバー③スマホ教室（初級者編）：産業クラスターデジタル研究会（梶谷・伊澤）

<経緯>

当会は、企業活動支援で従来からデジタル技術の活用や情報セキュリティ対策などの技術学習会・人材教育などに取組ん



できました。この知見を活かし、広く公共支援活動として取り組めないかと検討していたところ、横須賀市福祉総務課の方からご提案をいただき、地域の高齢者交流活動の場で、

スマートホンの操作方法とセキュリティ対策について説明会を開くことができました。

<スマホ教室>

今回は、一般市民、高齢者向けの講習会として下記のような身近な事例をテーマにしました。

①スマホセキュリティ手口と対策

・フィッシング詐欺・アマゾン・プライム会員支払い方法問題・三井銀行口座不正利用・ショートメール（SMS）による被害・ショートメールで不在通知・ソフトバンク偽の未払い料金支払い請求

②スマホセキュリティ基本事項、操作方法 その他

その後、懇親会の招待を受け、そこでもスマホの操作方法などを含めて熱心な質問を受けた。

八友会の皆様が積極的に学ぼうとされている場に参加できて有意義な時間でした。今後も、市の福祉総務課地域力推進係の方々と連携して活動していきます。ホームページに詳細のご紹介を載せています。

事務局からのお知らせ

次の通りお知らせします。

1. 「三浦市民交流センターまつり」に出展参加 2023年3月12日～19日 三浦市民交流センターにて恒例となった「三浦市民交流センターまつり」が開催され、当会もパネル展示をしました。詳細はWebサイト「三浦市民交流センターまつりに出展」を参照ください。
2. 2023年3月30日 2022年度第3回理事会を開催。2022年度活動実績見通しとインボイス制度登録の報告、2023年度組織改訂にともなう運営規定改訂案と2023年予算案、役員改選案を審議し、何れも承認されました。また、2023年度通常総会の開催日程を5月19日に決定しました。
3. 2023年4月21日 2023年度第1回理事会を開催し、2023年度役員改選案の報告と2022年度事業・決算報告案の承認と2023年度事業計画案を承認しました。
4. 2023年5月19日 2023年通常総会を開催し、2022年度事業・決算報告の承認と2023年度事業計画案と予算案の承認、及び役員改選案の承認を行いました。詳細はWebサイト「2023年通常総会の実施報告」を参照してください。終了後、同所にて細やかながら交流会を行いました。
5. 2023年6月1日 第2回理事会が開催され理事長に富野養二郎理事が再選され、副理事長に仲田清理事、堀込孝繁理事の2名が選任されました。
6. 新入会員の紹介 個人会員 佐藤 教子（三浦市在住） 個人会員 押切 智則（横浜市在住） （事務局 佐々木 興吉）

羅針盤

5月から新型コロナが2類から5類に移行し、レストランの亚克力板も無くなり、日常生活が徐々に戻りつつあります。3年間我慢していた行楽・旅行を計画している方も増えてきました。三浦の漁港でも多くのレストランで観光客が順番待ちの行列を作っています。本号は三浦半島有数の観光地・三浦市特集として、三浦市観光協会の草川会長に巻頭言をお願いしました。

三浦市はご存知のように三浦半島南端に位置し、三浦と言えば、台地のなだらかな起伏に広がる畑で採れ

る三浦野菜と、三崎マグロや相模湾、太平洋で獲れる海の幸の農漁業ですが、工業でも頑張っています。会社紹介の破砕機のヘリオス社様も三浦市の会社です。

今年度から本会の組織を変更しました。従来の部会制からよりフラットでフレキシブルなグループ制になりました。自律分散型組織、いまはやりの言い方をすればDAO（Decentralized Autonomous Organization）でしょうか。NPO向きの組織形態です。（清）

発行：特定非営利活動法人 産業クラスター研究会

〒239-0847 横須賀市光の丘8番3号 YRPベンチャー棟209号

Tel & Fax：046-847-6355 E-mail：yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

横浜事務所

〒236-0055 横浜市金沢区片吹69番26号

連絡先：046-847-6355

E-mail：yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

発行人：富野 養二郎